

はさま つちだ 廻間遺跡・土田遺跡 発掘通信

2026年1月29日



溝の中から土器が出土した様子（土田遺跡）

はさま つちだ 廻間遺跡・土田遺跡の概要

廻間遺跡・土田遺跡は、名鉄新清洲駅付近鉄道高架事業に伴う発掘調査として、令和7年5月から令和8年2月にかけて実施しています。

過去の調査では、国道302号線と名鉄名古屋本線の交差点付近で、弥生時代終り頃から古墳時代初め頃（3世紀頃）を中心とした建物跡や墳丘墓が多数見つっています。

今回の調査では、遺跡が北側に広がっている様相を探っていきます。

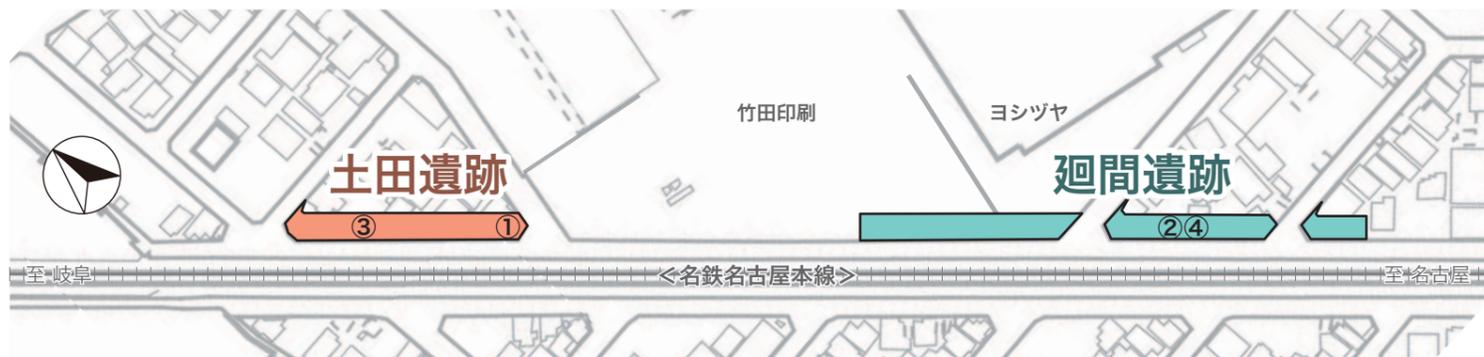
令和7年度の調査成果

土田遺跡（竹田印刷より北側）では、現代までの水田や畑の耕作土の下に、奈良時代～鎌倉時代（8～13世紀頃か）の溝や古墳時代初め（3世紀頃）のたてあな縦穴建物跡が見つかりました。

廻間遺跡も同じく、現代までの水田や畑の耕作土の下に、鎌倉時代から江戸時代（13～16世紀頃か）の井戸や溝、古墳時代初め（3世紀頃）のたてあな縦穴建物跡が見つかりました。

調査は令和8年2月下旬まで実施する予定です。

【調査区配置図】※数字は写真・解説の番号に対応しています。



①

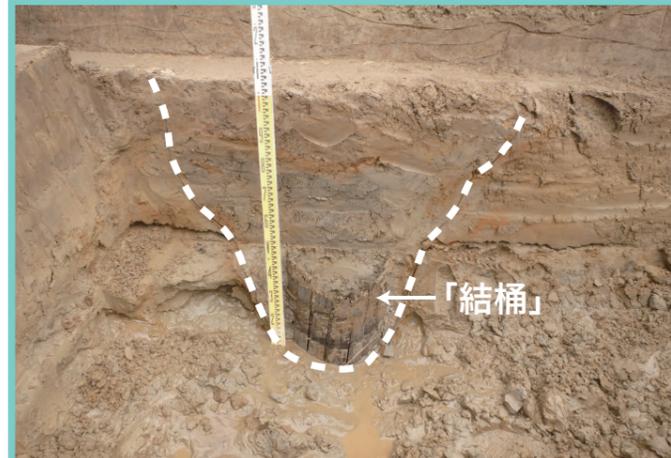


模式図



土田遺跡の中世と思われる水田跡から出土した山茶碗のやまぢゃわん小皿です。約700年前のものと考えられます。底面には墨で「×」印をつけた痕跡がありました。

②



「結桶」

廻間遺跡では、戦国時代後半（16世紀頃）の井戸が見つかりました。井戸の底には板を組み合わせた「結桶」（底板なし）が設置してありました。当時はここに水を溜めていました。

③



古墳時代初めのたてあな縦穴建物跡です。1辺が約4mの方形をしていたと考えられます。建物の中で炭化した木材（建物の部材?）が見つかりました。

④



参考資料



古墳時代初め（3世紀頃）の「パレススタイル土器」と呼ばれる赤く塗られた壺の口縁の部分が出土しました。

【制作・編集】

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
電話 0567-67-4163 FAX 0567-67-3054

HP



X(旧Twitter) Facebook



【調査支援】

株式会社アーキジオ 中日本支店

〒483-8166 愛知県江南市赤童子町南山98
電話 0587-50-6770 FAX 0587-50-6771

